

統計調査員体験発表

～第29回大分県統計大会～

統計調査員 船田 はるみ

本日は、統計功労者として栄えある賞をいただき、私ども一同、心から感謝しております。

思いおこせば、初めての調査は「毎月勤労統計特別調査」でした。統計調査が、どういうものかもわからないまま受けたのでした。

今でこそ「船田と申します。」とスラリと言えますが、当時はその様なことば使いもできず、また、全く面識のない事業所をお尋ねしての依頼は、少しばかり気の重いことでした。

それから、各種統計調査に従事してきました。どの調査も、根気と熱意と工夫が求められるとても重要なものです。

労働力調査では、なかなか面会のできない世帯へ、朝は早くから、夜は部屋に明かりが点くと、ドアチャイムを鳴らすという様な、まるで刑事ばりの張り込みをしたこともありました。無我夢中でした事ですが、まだまだ時代の背景が良かったのでしょうか？昨今の様に「プライバシー」や「個人情報」の一言で、説明すらも聞いてもらえずに、門前払いをされたり、行政への不満をあからさまに言われることもありませんでした。

いろいろな調査がある中で、取りわけ困難だった調査が、現在実施中の「全国消費実態調査」でした。

二十数年前のある日、「船田さん『全国消費実態調査』という調査があるんで

すが、調査区が近いので受けてもらえませんか」と、担当者の非常にサラッと
した口調の依頼でした。

その頃の私の口癖は「叱咤激励、罵詈雑言、艱難辛苦を乗り越えて人生を歩いて行く」でした。ただし、私にではなく、夫と子供にです。ところが、この調査を受けたばかりに、まさか、こんな苦難が待ち受けていようとは、思いも
しませんでした。

7月から8月のとても暑い時分に、調査区全ての世帯を訪問して調査の主旨を説明し、世帯主の名前を聞き取る事前調査、その後に家計簿を記入していただく世帯へのお願いで、毎日くたくたでした。

事前に面会した時はにこやかだった方も、いざ対象世帯となり何うと、手の平を返した様に断られ、断られ、わずか12世帯を決めるのに、何日も何十回も調査区に行きました。

私はそれまで、ストレスに強い性格だと思っていましたが、この時ばかりは人間不信に陥る寸前で、心は折れそうでした。

口をついて出るのは「国の調査を断っていいの？」

一人で世帯に行く不安から「こんな大変な調査を調査員だけするのはおかしい。なぜ市の人と一緒に行ってくれないの・・・県や国の人達が直接お願いに行ってくれなければ、受ける人が居るはずない。」と、いつかしたら、私が行政への不満を漏らしていました。

よくよく考えれば、私の経験不足、勉強不足からくる不平不満でしたが、その時は必死でしたので、そこまで思い至る余裕すら無く、どうにか終えたという記憶しか残っていません。

この時の気持ちを素直に正直に言わせてもらうなら、大分市役所の皆さまには申し訳ありませんが「大変な調査なんて言わなかったでしょう!!『だまされた!!』」の一言に尽きます。

この調査の経験者、今まさに調査中の皆様も同じ思いではないでしょうか。

ところが、統計調査の本当の「恐ろしさ」は、少し時が過ぎると、辛かったことや苦勞したことを忘れてしまうところです。

「船田さん、〇〇調査があるんですが、受けてもらえませんか。」と聞き覚えのある担当者の電話に「もう調査はしない。」「統計から足を洗う。」と固く固く決めていたのに、意に反して「あらっ、どこら辺りですか?ありがとうございます。」なんて返事をしてしまう私がいるのです。なぜか、お断りできないのです。

この状態を『統計調査という合法麻薬の虜』になってしまった私だと分析しています。

それから三十年近くが過ぎようとしています。

何十年、何十回しても、なかなか思う様に調査ができない時は、何とも言えない無力感で一杯になることも度々ありました。

ある時、社会人になった息子から「国の施策は、母ちゃん達の統計から決定されているんだ。調査員一人一人は微力だろうけど、無力ではないよ。」の言葉に、やる気を取り戻しましたし、今回の受賞で、姉から「貴女は通過点のおまけで戴くと言うけど、お金では絶対に買えない素晴らしいおまけよ。」と褒めてもらいました。幾つになっても、褒められるのは嬉しいものですね。

さて、4年前の国勢調査、今年の経済センサス基礎調査・商業統計調査、全

国消費実態調査で指導員を受ける様になりました。

かつて、調査客体へのグチを先輩にこぼしたことがありました。黙って聞いてくれた後で「貴女はまだ若いから、腹立たしい時もあるだろうけれど、私ぐらいになれば、穏やかに対応できる様になるわよ。」との言葉を、忘れることが出来ません。そして、今まさに私も、先輩の境地に近づきつつあります。

調査に長く従事するにつれ、調査員イコール個人事業主だと考える様になりました。説明会に出席し、自宅で用品を確認しながら配布、受け取りをいつにしようか。1Kアパートがあるから苦勞するなあ。オートロックマンションは手強いよ。等々、事前の準備を工夫することで、回収率がアップしたり、困難だと思われたことがスムーズに行えたりします。そんな時は、一人でやり遂げたという満足感と充実感で一杯になり、調査員の醍醐味を味わえます。

調査員は、それぞれ自分の『調査レシピ』を持っています。指導員というこの機会に、経験の浅い方、若い方に『統計調査の虜』になる迄、調査員を続けて欲しいと願い、私のレシピを伝えることも、この役目の一つではないかと考えています。

最後になりましたが、これまで見捨てることなく、褒めて、育てていただいたお陰で、今この私がいます。

大分県統計調査課、大分市役所の皆様に、心から感謝申し上げまして、体験発表を終わらせて頂きます。

ご静聴 ありがとうございます。